

モニタリング・ツールの機能を飛躍的に強化

ソリューション概要



音声、データ、および映像のコンバージェンスが進む中、多くの組織は、高速ネットワーク上で効率的に送受信されるさまざまな種類の情報にますます依存するようになってきています。また、データ・タイプの多様化に伴って、トラフィックを分析し、高速でセキュアなネットワークを保つためのモニタリング・ツールも多岐にわたってきています。クリティカルなリンクが増え続けるにつれ、そこに展開すべきツールの種類も増えたため、導入するモニタリング・ソリューションのコストと複雑性も飛躍的に増加しています。このように増大し続けるモニタリングの課題を克服できる製品はあるのでしょうか。

モニタリング・アクセス分野のリーディング・カンパニーNet Opticsが新たに提供する、モニタリング/データ・アグリゲーション・ソリューションDirectorを導入すれば、ミッション・クリティカルで高速集中型のネットワークを管理することができます。Directorでは、数十から数百にも及ぶクリティカルで大容量のデータ・リンクをモニタリング・ツールのサブステーションに接続するため、リモートからの動的なコントロール機能で、どのリンクからの対象トラフィックも指定したツールに導くことができます。高度なフィルタリング、アグリゲーション、およびリジェネレーションの各機能により、リンクからツールへの1対1、多対1、1対多のマッピングだけでなく、プロトコル、IPアドレス、ポート、あるいはパケット・ペイロード・コンテンツにまで基づいてトラフィック・ストリームの一部分を選択した、部分対1や部分対多というマッピングをも実現します。Directorは、専用ツールを多数のリンクにわたって共有し、その用途に応じた対象トラフィックのみを扱うようツールの処理能力を拡大することで、導入されたモニタリング・リソースの効率性を劇的に向上させ、モニタリング・ツールへの投資も最大限活かすことのできるツールです。

Director™

- ・1台あたり4個の10ギガビットXFPポートおよび34個の1ギガビット・ポートからのトラフィックのスイッチ、アグリゲーション、およびリジェネレーション
- ・10個のSFPモニタリング・ポートによるメディア・タイプ変換のサポート
- ・最大10台までのデジタイズ・チェーン接続による拡張
- ・対象トラフィックのみをツールに導く、低レイテンシのハードウェアベースTapFlow™フィルタリング・エンジンの搭載
- ・パケット数、帯域幅の利用、および閾値アラームなど、効率性を向上させるためのRMON統計の提供



ITネットワーク管理の可視性を向上

今日のネットワークにおいて進む高速化や複雑化、さらにはその機能性の向上により、Directorを

導入する必要性が高まってきています。しかし、エンジニアリング分野において、ネットワークの実態はそれほど知られていません。パケットがたどる経路を見つけ出し、新しいネットワーク・リンクやトポロジを検出、ダウンしたリンクや切断されたリンクを自動的に回避して、数十種類の異なるプロトコルを処理し、セキュアで規律正しいトラフィックを保つために、いかに高いレベルの機能がネットワークに自動的に適用されているかを把握している人は、ネットワーク設計者や管理者を除けば、ほんの一握りです。しかし、ネットワーク管理者は、ネットワークの状態を常に監視する必要があることを理解しています。なぜなら、このネットワークの高い機能性をも超える問題が発生することがあるからです。

モニタリング・ツールの機能を飛躍的に強化

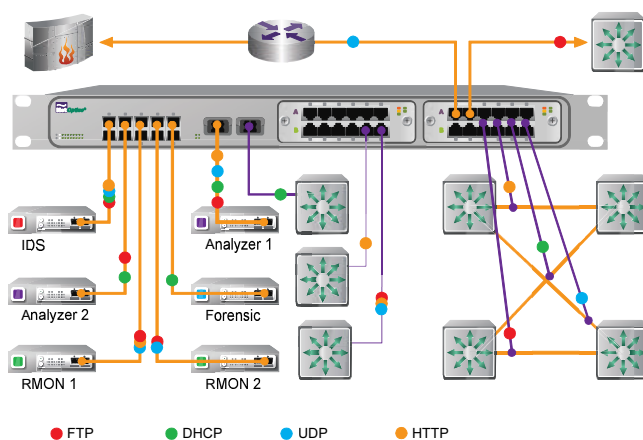
ソリューション概要

どのネットワークも、ハッカーや悪意を持つ利用者による脅威に常時さらされており、小さな問題でも瞬時に検出して何らかの対応を施さなければ、瞬く間に大きな問題へと発展しかねません。

モニタリング・アクセス機能を得る方法の一つに、ネットワーク・スイッチに搭載されるスパン・ポートを利用するというやり方があります。管理者は、モニタリング用に対象トラフィックのコピーがスパンのスイッチ・ポートに送信されるよう、スイッチの設定を変更するだけで構いません。この方法を採用すれば、スイッチからアクセス可能ないかなるリンクも単一のツールで扱えるようになります。スパン・ポートは今日のモニタリング・アクセス・プラットフォームでも引き続き利用されていますが、以下に挙げる要因から、その効果は著しく低減しています。

- ・ 管理用およびメンテナンス用の時間枠の確保、あるいはネットワークを再構成するための許可が必要となるスパン・ポートの利用は、煩わしく、時間もかかる。
- ・ ポートをスパン用に利用すると、そのポートで本来生まれるはずの収益の損失につながる。
- ・ スパン・ポートでは、対象トラフィックが100%反映される保証がない。大量の処理が集中する現状のスイッチでは、多くの場合、他のデマンドが高すぎる場合にスパン・トラフィックの取りこぼしが発生することがある。また、スパン・ポートは1ギガビットおよび10ギガビットの高速トラフィックに対応できないことが多い。

上記の理由から、スパン・ポート・アクセスに代わって、モニタリング対象のリンクとインラインで設置されるテスト・アクセス・ポート、すなわちタップが利用されるケースが増えています。タップは、リンク上のすべてのトラフィックを100%モニタリング・デバイスに送ることのできる専用装置であり、スパン・ポートが取りこぼしがちで、かつトラブルシューティングの重要な手がかりとなることの多いレイヤ1とレイヤ2のエラーも確実に送信されます。さらに、タップは、完全にセキュアでパッシブなデバイスです。IPアドレスが割り当てられないためリンクから透過であり、タップへの電源供給が停止してもリンクを通過するトラフィックへの影響はありません。実際に、オプティカル・リンク用のタップは電源が不要であるため、グリーンなデータ・センタにとっても大きな利点となります。



Directorが採用するTapFlow™フィルタリング・エンジンによる、指定プロトコル・タイプに基づく全レイヤからのトラフィックのフィルタリング

すぐにアクセス可能なソリューションを導入

ハイパフォーマンスなネットワークをモニタリングする主要なアクセス方法として発展したタップ・テクノロジーは、さまざまな価値の高い革新的な機能を搭載することで引き続き進化を遂げています。Directorは、これらの機能を1台の装置に集結させた、即時にアクセス可能なソリューションです。

- ・ アグリゲーション機能を備えた4個の10ギガビットXFPポートおよび34個のギガビット・ポート
- ・ インライン・ネットワーク・モジュールおよびスパン・ネットワーク・モジュール
- ・ リジェネレーションとメディア変換をサポートするSFPモニタ・ポート・インターフェース
- ・ 低レイテンシのハードウェアベースTapflow™フィルタリング・エンジン

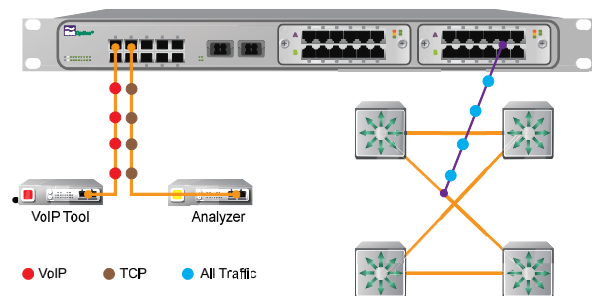
モニタリング・ツールの機能を飛躍的に強化

ソリューション概要

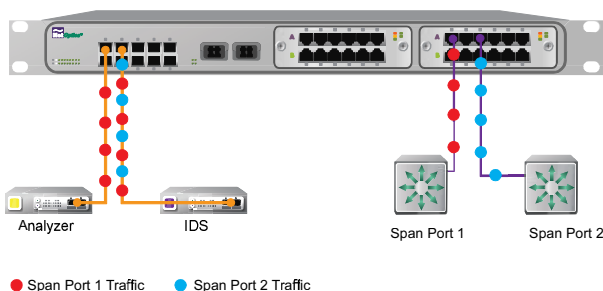
Directorは、多岐にわたる機能を備えながらも、タップと同様に容易にセットアップできるスタンドアロン・アプライアンスです。ネットワーク・リンク、モニタリング・デバイス、および電源をそれぞれ接続し、ポイント・アンド・クリックで簡単に操作できるNet Optics Indigo™管理ソフトウェアを使用して、どのトラフィックをどのツールにコピーするかを指定するだけで構いません。

また、ユーザ・フレンドリなグラフィカル・ユーザ・インターフェース(GUI)・ツールや、効率的なコマンド・ライン・インターフェース(CLI)・ツールを使用して、より高度な機能をオンラインで簡単に利用することもできます。さらに、さまざまな使用例を網羅したオンライン・ドキュメントも提供されます。購入いただいた多くのお客様から、製品の受け取りからセットアップを介してDirectorの機能テストを実行するまで、すべて1日以内で完了しているとの報告を受けています。

TapFlow™フィルタリングによる、プロトコル・タイプに基づいたトラフィックの指定モニタリング・ツールへの送信



TapFlow™フィルタリングでは、トラフィックのフィルタリングとともにアグリゲーションも可能



Indigo™ ソフトウェアによる完全なコントロール

Net Optics Indigo管理ソフトウェアを使用することで、導入するDirectorを短期間に習熟でき、投資を最大限活かすことができます。Indigoでは、お客様のニーズや快適度を満たすことのできる、以下の3つのインターフェースを備えています。

- ・ **System Manager** 複数台のDirector、数百に及ぶモニタリング・ツール、および数千に及ぶネットワーク・リンクによる構成でDirectorを簡単に追跡できる、豊富な機能を備えたグラフィカル・ユーザ・インターフェースです。
 - ユーザが割り当てるラベルにより、各装置を簡単に識別
 - ポイント・アンド・クリック・コマンドまたは英数字入力により、リンクやモニタリング・ポートを切り替え可能
 - フィルタ定義に業界標準のSNORTシンタックスを利用可能



System Managerは、専用の管理ポートを介してリモートでセキュアに稼働します。さらに、完全なレポート機能とグラフィカル・モニタリング機能も備えています。

- ・ **Web Manager** Directorに内蔵されたHTMLベースのインターフェースであり、あらゆる場所からあらゆるWebブラウザを介してアクセスできるため、管理者やエンジニアが自宅や外出先からもネットワークを確認できる便利なツールです。さらに、インターフェースがシンプルであるため、新規のユーザでも比較的すぐにDirectorの機能を利用できるようになります。
- ・ **CLI** Directorのコマンド・ライン・インターフェースは、Ciscoやその他のスイッチおよびルータ管理ソフトウェアの操作経験があるネットワーク管理者であれば瞬時に把握できるものです。ローカルのRS 232ポートまたはリモートのSSH接続を介して、Directorユニットを迅速に構成し、そのステータスを確認するための理想的なコンソールです。

モニタリング・ツールの機能を飛躍的に強化

ソリューション概要

まとめ

Directorを使用すると、すべてのクリティカルなリンクからデバイスの共有プールに対象トラフィックを送ることにより、データ・モニタリングを迅速化することができます。また、モニタリング・ニーズが異なる複数のリソースやグループにわたるさまざまなツールを活用することもできます。ネットワークの調整を合理化し、既存ツールの価値を最大限まで引き出すことのできるTapFlow™フィルタリング機能の価値を発見していただければ幸いです。モニタリング・ツールの投資収益率を高めながら、モニタリング・アクセスの課題も1つずつ克服できます。高速集中型のネットワークのモニタリング・ツール、Directorの導入を是非ご検討ください。

Customer First!